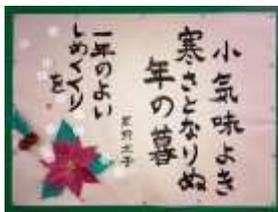


明日も元気で来いよ！



師走。12月を迎えました。もう2学期のまとめをする時期となりました。

左は、今月の玄関掲です。素材は、ポインセチア、松笠、そして、雪です。今月も、色画用紙で精密に作られています。学期末懇談等で来校された折には、ぜひご覧ください。

紹介した句は、星野立子さんの作品です。インターネットで偶然みつけました。「小気味よき 寒さ」という言い

回しが気に入っています。私は、冬の寒さが好きです。早朝の冷え切った空気の中っていると、物事を深く静かに考えられるような気がします。(もっとも、近頃は、寒さが骨身にしみるようになってきました・・・)

玄関掲示にまつわる問題は、月曜日の朝会で子どもたちに伝えます。お楽しみに。

2学期の そして 一年のよいしめくくりを

12日から15日は、2学期末の個人懇談です。子どもたちのがんばりを中心にお伝えします。ご家庭でも、がんばったこと、できるようになったことをお子様と話し合い、自信と意欲をもって、新しい年を迎えることができますよう、よろしく願いいたします。

「チロリとブルースマンの約束」

以前紹介した「名犬チロリ」の本を寄贈してくださった山内信子様から、「チロリとブルースマンの約束」(上之二郎著 発行・創美社 発売・集英社)という本をいただきました。

チロリの活躍や山内様の願いや活動については、この「明日も元気で来いよ」の10号から13号で詳しく紹介しました。殺処分寸前だった捨て犬のチロリは、大木トオルさんに助け出され、セラピードッグとして多くの人々の心を癒してきました。その物語を読んだ山内様は、東日本大震災で被災した子どもたちに思いを寄せ、「命の大切さ」「人への優しさ」…を多くの子どもたちに伝えたいという願いから東北や阪神淡路大震災の被災地である兵庫や大阪の学校へ「チロリ」に関する本を寄贈されました。山内様は、その後も、東北各地を訪問され、「チロリ」を通じて、ご自分の願いを訴えて続けておられます。

今回いただいた「チロリとブルースマンの約束」という本は、大木トオルさんとチロリとの出会い、そして、チロリがセラピードッグとして活躍するに至る経緯や2人(正確には一人と一匹)の心のふれあいなどを記したノンフィクションです。

日本には、飼い主の身勝手に捨てられ、殺処分される犬が非常にたくさんいます。大木さんは、そのことに心を痛め、一頭でも多くの犬を助けたいという強い願いをもっていました。そして、殺処分寸前だった捨て犬のチロリがセラピードッグになって人を助ける姿をたくさんの人々に見てほしいと考え、活動を続けました。そのことによって、人々の犬に対する意識はきっと変わると信じたからです。

本文の中から、印象に残った部分を紹介します。

◆「最も大事なことは、捨てられ、虐待を受けた犬たちは痛みを知っているということです。痛みを知っているからこそ、苦しんでいる人の心を共有し、ピュアな心で人と接する。だから、人は、セラピードッグに癒されるし、触ろうと手を伸ばし、一緒に歩きたいと車椅子から立ち上がるのです」

◆人に勝つ生き方ではなく、人の役に立つ生き方の喜びを、一人でも多くの人々に感じてもらいたい。ブルースマンはその願いを込めて、一頭でも多くのセラピードッグを育成しようと、今日も全存在をかけて戦い続けている。大木自身が、チロリから教えてもらった生き方だからだ。

大木トオルさんの活動の根底には、「殺処分される犬の命を守りたい」という思いがありました。その中で、大木さんは、チロリと出会い、命の重み、人の心の痛みをわかること、寄り添うことの大切さを、自分自身の体験と重ね合わせて再認識し、人々に伝えてこられました。山内様は、東日本大震災で被災した子どもたちのことを思い、大木さんと同様に、命の大切さ、人への優しさを伝えようと奮闘されています。

私も、「命の大切さ」「人への優しさ」を今一度心に刻み、西天満小学校の子どもたちの「やさしさ」「素直さ」を大切に伸ばしていきたいと思っています。